

令和 2 年 6 月 25 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K02240

研究課題名(和文) 太宰治直筆資料のデジタル化、オンライン公開に関する基盤整備の研究

研究課題名(英文) Study of digitalization and On-line-ization of Dazai Osamu's autograph material

研究代表者

安藤 宏 (ANDO, Hiroshi)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授

研究者番号：30193113

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は全国の公共機関に収蔵されている太宰治の直筆資料に関する情報収集を行い、その過程で資料のデジタル化に協力し、オンライン公開のための基盤整備を行うものである。

日本近代文学館、青森県近代文学館、弘前市立文学館、山梨県立文学館、神奈川県立文学館、三鷹市など、関係する主要公共施設とコミュニケーションをはかり、その中で有益な情報を交換することができた。結果的に上記のほとんどすべての文学館の太宰治展、関連する講演会に監修、編集、協力などの形で参加し、資料の一般公開に協力することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

出張の中であらたな資料に出会い、新聞社の協力のもと、一般公開すると共に、公共施設への収蔵に寄与することができた。

また、太宰治の文献資料研究に関する第一人者、故山内祥氏氏のご遺族と連絡を取り、その蔵書が三鷹市に寄贈され、「山内祥史文庫」の設立に助力できたことも大きな成果であった。

さらに、数度にわたる太宰治展への協力、またその書籍化は、最前線の研究の状況を広く一般の愛好者に周知する上で大きな効果を上げたものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The study performs the intelligence about the handwriting document of Osamu Dazai stored by the public institutions of the whole country, and maintains the base of the digitization and online exhibitions of these documents.

I consulted with The Museum of Modern Japanese Literature, The Museum of Modern Aomori Literature, The Museum of Hirosaki City native district Literature, Yamanashi Prefectural Museum of Literature, Kanagawa Museum of Modern Literature, and Mitaka-shi, and was able to share useful information in that. As a result, I participated in an Osamu Dazai exhibition of those institutions mentioned above, as an lecturer or companion, and was able to cooperate with the general release of the document.

研究分野：日本近代文学

キーワード：太宰治 文学 直筆資料 文学館 デジタル化 オンライン

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近代を代表する小説家、太宰治の直筆資料について、近年、各地の公的機関に収蔵が進みつつあるが、こうした情報の共有は、研究者、機関相互の間で必ずしも進んでいない。背景には太宰治に限らず、明治以降の近代文学に関する直筆津資料の情報の共有、研究への活用方法について、いまだ研究の草創期の段階にあるという歴史的背景がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、太宰治の直筆資料について、各地の公的機関に収蔵されている資料のデジタル化を推し進め、将来これらをオンラインで結び、全国の研究者が容易に閲覧できる環境を構築するための基盤整備を行うことにある。あわせて草稿、日記、書簡等、近代文学関係の直筆資料を全国の研究者が共有していくためのモデルケースを提案し、形態的な文化資産としての「近代文学」に関し、今後の新たな保存・公開のあり方を提示していくことを企図している。

3. 研究の方法

日本近代文学館、青森県近代文学館、山梨県立文学館、神奈川県立近代文学館、三鷹市が太宰治の顕彰事業、資料の収集の中心になっているので、「太宰治展」などの企画に積極的に協力することによってこれらの機関との連携を深め、情報を共有しながら資料の公開を促進していく。

4. 研究成果

2015年(平成27)年度

- ・2014年7月、太宰治の遺族である津島家(津島園子氏)より、公益財団法人日本近代文学館に対し、太宰治直筆資料184点の追加寄贈があった。1987年、1997年に続く3回目の寄贈で、これにより、同館の「太宰治文庫」は481点に及ぶ資料がそろい、太宰治直筆資料に関して、日本で最大のコレクションとなった。
この3回目の寄贈資料に関し、あらためてその内容について確認作業を行うと共に、文学館の担当職員と、資料整備の方法について継続協議を行った。その際、すでに絶版となっている『太宰治文庫目録』の増補版の作成が課題となった。収蔵資料の分類項目について、2015年度に入ってから、数回に及ぶ打ち合わせの機会を持った。その際、将来、同館のHPに掲出する可能性についても合わせて検討を行った。
- ・2014年に公開、発売されたオンライン版『太宰治自筆資料集』について、発行元の雄松堂書店の担当者と、今後の事業拡張の可能性について協議を行った。日本近代文学館への遺族からの3回目の寄贈資料、また、前回搭載できなかった資料を、今後いかに増補していくか、が主な議題であった。同時にまた、他の文学館収蔵の太宰治直筆資料のオンライン化、ネットワークづくりの可能性についても協議を行った。
- ・山梨県立文学館の学芸員と、太宰治関係資料のデジタル化、将来のオンライン化の可能性について協議した。
- ・青森県近代文学館に出張し、同館に対し、太宰治関係資料のデジタル加が急務であること、また、将来、オンラインで各館の資料を結び構想について話し合いの場を持った。
- ・8月、三鷹市の清原市長、内田副市長、ご遺族の津島園子氏と面談し、太宰治記念館設立について協議を行った。前後して三鷹市の山本有三記念館の職員と太宰治関係資料の情報交換、ならびに今後の太宰治顕彰事業のあり方についての協議を行った。

- ・ 8月25日、日本近代文学館演習で、太宰治の直筆資料を例に、「資料を活用する研究法」の講義を行った。
- ・ 9月14日、杉並公会堂ホールにて「太宰治サミット第二回」でパネリストをつとめ、荻窪の太宰治下宿「碧雲荘」保存に関する問題を討議した。
- ・ 青森県外ヶ浜町（旧蟹田町）の太宰治文学碑に修復の必要があるとの情報を得、その必要性について、関係者と協議を行った。
- ・ 『太宰治100の言葉』（宝島社、平成28年3月刊）の監修、編集作業への協力を行った。またその過程で、太宰治関係写真の所在について、新たな情報を収集した。また、個人で収蔵している資料を、同書に掲載する文献として撮影許可をした。
- ・ 11月8日、秀明大学において講演「太宰治『人間失格』の魅力ー原稿と実作の間ー」を行った。

2016年（平成28）年度

- ・ 日本近代文学館「太宰治文庫」への第三回寄贈資料を広く一般に周知する必要から、その概略、特に注目すべき資料について、『日本近代文学館 年誌』12号（2017年3月刊）に論文「太宰治文庫」追加寄贈資料の概要」を公表した。
- ・ 前年度より、同館「太宰治文庫目録 増補版」の編集作業の協力を、引き続き行った。また、同館所蔵の太宰治関係の写真について、その公開のあり方について協議を行った。
- ・ 7月に青森県の五所川原市、弘前市、青森市において太宰治の情報収集、資料調査を行い、大きな成果をあげることができた。主な内容は以下の通り。
 - ・ 金木町南台寺にて津島家（太宰生家）の史料調査を行い、住職の生玉氏と懇談。合わせて金木太宰会会長、木下巽氏から同寺所蔵資料について、情報を収集した。
 - ・ 青森県近代文学館の総括主任、伊藤文一氏と懇談し、太宰治関係資料のデジタル化を要請し、そのロードマップについて、シミュレーションを行った。
 - ・ 太宰の小学校時代の訓導を勤めた傍島氏の日記（新資料）を閲覧、今後の公開方針について情報を収集した。
- ・ 8月23日、日本近代文学館演習で、太宰治の直筆資料を例に、「資料を活用する研究法」の講義を行った。
- ・ 津島家のルーツに関する古文書を入手し、調査を開始した。津島家が痛切とは異なり、江戸後期にはすでに商業活動を展開、富裕層になっていたことを示すものとして注目される。
- ・ 青森県外ヶ浜の太宰治文学碑の修復に関し、町の文化財審議会に意見書を提出した。また、文学碑建立時の佐藤春夫、井伏鱒二らの関係書簡（新資料）を確認、これらは「東奥日報」2016年8月10日付紙面に報道された。あわせて東奥日報社の関係者と、今後の太宰治検証のあり方について懇談した。
- ・ 太宰が高校時代、同人誌を文壇作家に送付した、その送付先リストを東奥日報記者の協力のもとに確認した。これらは「東奥日報」2016年11月15日付紙面に公開、その後日本近代文学館への寄贈の橋渡しを行った。
- ・ 2017年2月21日および3月22日、三鷹市立太宰治記念館（仮称）の設立に向けた検討会議に出席した。

2017（平成29）年度

- ・4月、弘前市と青森市に出張し、弘前市立図書館にて太宰治の生家、津島家の江戸時代のルーツをめぐる新史料を確認した。あわせて弘前市立郷土分学館長櫛引洋一氏と情報交換、青森県立文学館でも資料調査を行った。また、青森県近代文学館の職員と協議し、太宰治関係資料のデジタル化に関する協議を行った。
- ・4月、日本近代文学館『太宰治文庫 増補版』が完成した。作成関係者として、「はじめに」を執筆した。
- ・日本近代文学館で平成は31年度に太宰治展の開催を計画、その編集を行うことになった。
- ・7月25日、三鷹市立太宰治記念館（仮称）の設立に向けた検討会議の委員を三鷹市より委嘱され、会議に出席した。
- ・7月29日、三鷹市元気創造プラザにおいて、「みたか学連続講座 文学のまち・三鷹を知る 太宰治と三鷹」の講演を行った（主催、三鷹市スポーツと文化財団、三鷹市生涯学習センター）。
- ・8月、神戸に出張、太宰治の書誌研究の第一人者である、故・山内祥史氏のご遺族と面談し、太宰治関係の蔵書を三鷹市に寄贈する仲介を行った。合わせてこの間、三鷹市と数度にわたる会合を行った。
- ・8月22日、日本近代文学館演習で、太宰治の直筆資料を例に、「資料を活用する研究法」の講義を行った。
- ・三鷹市は太宰治顕彰事業の一環として、2018年6月に太宰治没70年特別展「太宰治三鷹市とともに」の開催を計画、その展示監修を委嘱された。

2018年（平成30）度

- ・2月、三鷹市の清原市長、ご遺族の津島園子氏と面談、市長より、かねてからすすめてきた太宰治記念館の事業計画を大幅に変更（事実上の中止）せざるをえなくなった経緯について報告を受けた。合わせて、それに代わる顕彰事業の計画について懇談を行った。また、太宰治助言者会議の委員を委嘱され、5月29日と11月20日に開かれた「三鷹市ゆかりの文学者顕彰事業検討会議」に出席した。
- ・6月16日～7月16日まで行われた、三鷹市スポーツと文化財団主催「太宰治三鷹とともに 没後70年展」（三鷹市美術ギャラリー）の編集企画協力を行った。合わせて「太宰治生誕110年記念展」の企画の協議に入った。また、同特別展に関連して、講演「資料で紐解く太宰治展～没後70年を迎えて」を行った。
- ・8月に三鷹市、財団関係者と共に神戸の山内家に出張し、資料の寄贈を受けると共に、資料の選定、搬送、保管、整理に関して助言を行った。合わせて契約書を作成、名称を「山内祥史文庫」とすることを決定した。
- ・8月21日、日本近代文学館演習で、太宰治の直筆資料を例に、「資料を活用する研究法」の講義を行った。
- ・9月15日、日本近代文学講座「資料は語る 東京近郊の文学 太宰治と伊豆―『斜陽』を中心に」を講演した。
- ・9月、神奈川県立文学館より依頼を受け、同館所蔵の太宰治直筆資料の調査を行った。書き込みのある聖書で、その調査報告「『HUMAN LOST』の“準”典拠」を「神奈川近代文学館」143号（2019年1月）に発表した。

- ・10月24日、昭和女子大学人見講堂において「女性教養講座 太宰治の女性語りについて」を講演した。
- ・日本近代文学館特別展「太宰治 創作の舞台裏」の企画、立案及び、図録の編集作業を開始した。また、個人資料の出品に協力することになった。

2019年(平成31・令和元)度

- ・日本近代文学館(東京・駒場)で4月6日～6月22日まで開催された春期特別展「太宰治 創作の舞台裏」の企画、編集業務を行った。また、その一環として、同館にて5月18日、講座「資料は語る 舞台裏から見る文学 太宰治・創作の舞台裏―生誕110年展のまどろこ」を担当した。
- ・上記に関し、展覧会の図録を書肆が館の編集のもとに刊行し、一般発売するというあらたな事業を行った。内容に関し、春陽堂書店の編集者と、館の事業への協力、という形で半年に及ぶ編集作業を行った。
- ・日本近代文学館が独自に入手した太宰治「お伽草紙」の完全原稿を調査し、春期特別展「太宰治 創作の舞台裏」にて公開した。太宰治の主要作の完全原稿が発見されるのは久々のことであり、公開に先立ち、館にて記者会見を行い、解説を行った。なお、この原稿について、公開後、さらに「日本近代文学館年誌 資料探索」(2020年3月発行)に、「太宰治『お伽草紙』の本文研究―新出原稿を中心に」と題する論文において、その詳しい調査報告を行った。
- ・6月15日、山梨県立文学館特設展「太宰治生誕110年―作家をめぐる物語―」関連事業として、川島幸希秀明大学教授と対談「太宰治・著書と資料をめぐって」を行い、太宰治に関する文献学的研究の重要性について話題提供を行った。
- ・7月に新三鷹市長河村孝氏、太宰治ご遺族と会合を行い、今後の太宰治顕彰事業のあり方について協議した。太宰治記念館の計画中止を踏まえ、当面、三鷹市美術ギャラリーの一角に、太宰治記念施設を開設差売ることになった。2020年12月オープンにむけ、その協力、助言を行うことになった。
- ・8月に弘前市に出張し、17日、弘前市立観光館において、「太宰治生誕110年記念展」記念講演会「太宰治と弘前・津軽」を行った。また、同展の企画への助力を行い、資料の情報交換を行った。また弘前市内の現地調査と、津島家のルーツをめぐる史料の情報収集を行った。
- ・三鷹市スポーツと文化財団主催の太宰治生誕110年特別展「辻音楽史の美学」(9月21日～10月20)の展示監修をつとめた。この展示において、「山内祥史」文庫の紹介を行った。これらに関連し、これまでの研究、調査を生かし、10月5日に講演「文学史に刻まれた文豪との日々 佐藤春夫・川端康成・志賀直哉」を行った(於・三鷹ネットワーク大学)。
- ・小山市立文化センターにおいて太宰治生誕110年記念講演「太宰治 「斜陽」の世界」を行った。
- ・山梨県立文学館より、太宰治関係直筆寄贈資料の鑑定調査に関する業務を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 安藤宏	4. 巻 9号
2. 論文標題 太宰治「女の決闘」論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 66 - 79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤宏	4. 巻 33
2. 論文標題 はじめに	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 太宰治文庫目録 増補版	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤宏	4. 巻 25
2. 論文標題 編輯後記	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 太宰治研究	6. 最初と最後の頁 253-256
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤宏	4. 巻 280
2. 論文標題 小説は書き直される	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本近代文学館	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤宏	4. 巻 115巻2号
2. 論文標題 デタッチメントという戦略	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新潮	6. 最初と最後の頁 124-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤宏	4. 巻 24
2. 論文標題 『晩年』試論 執筆順位を中心に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 太宰治研究	6. 最初と最後の頁 1 - 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤宏	4. 巻 12
2. 論文標題 「太宰治文庫」追加寄贈資料の概要	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本近代文学館年誌 資料探索	6. 最初と最後の頁 65 - 74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤宏	4. 巻 2014版
2. 論文標題 『生誕一〇五年 太宰治 - 語りかける言葉』の意義	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 神奈川近代文学館年報	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤宏	4. 巻 15
2. 論文標題 太宰治『お伽草紙』の本文研究－新出原稿を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本近代文学館年誌 資料探索	6. 最初と最後の頁 46-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 安藤宏
2. 発表標題 近代言文一致体の成立と二葉亭四迷
3. 学会等名 日本ロシア文学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安藤宏
2. 発表標題 文学史は表現に内在する
3. 学会等名 日本近代文学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 安藤宏 (共編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 223
3. 書名 ちくま近代評論選	

1. 著者名 安藤宏	4. 発行年 2015年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 204
3. 書名 「私」をつくる 近代小説の試み	

1. 著者名 安藤宏（監修）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 宝島社	5. 総ページ数 223
3. 書名 太宰治 100の言葉	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----